

緑化だより

No.173 令和 3年7月号



ホウオウゴケ

- 季節の花(はちす(蓮))
- 昆虫の話(7月のガ)
- 小さな世界こけ
(コケが観察できる場所(12-3))
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

広島県立大学の木々

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>



季節の花

はちす(蓮)

「ひさかたの 雨も降らぬか蓮葉(はちすは)に

溜(た)まれる水の 玉に似たる見む」

右兵衛府の官人 万葉集:巻 16-3837

これを訳しますと

(空から雨でも降ってこないものかな、蓮(はす)の葉に溜まった水が玉のようにきらきらと、

美しく光っているさまが見たいものです。)

ある酒宴の席でのこと、ご馳走はすべて蓮(はす)の葉に盛られておりました。宴もたけなわの中、周りからの勧めで、蓮(はす)を折りこんだ歌が詠われました。蓮の葉に「溜まれる水」は美女の真珠のような涙にたとえられて、やさしくて美しい女性が、そばにいてくれたらどんなにかうれしいのに、と詠われています。

ハスの古名は「はちす」と言われ、種子が入っている穴の集まりは、花托(かたく)と呼ばれ、これをハチの巣に見立て、それが転訛してハスとなりました。

ハスはハス科(旧スイレン科)ハス属で多年生の水生植物です。インド原産で古い時代に中国から渡来したといわれますが、古い地層から化石や種子が発見されているので日本に自生していたという説もあります。1951年(昭和26年)千葉市の落合遺跡で2,000年前(弥生時代後期)の種子が3個発掘されました。大賀一郎博士がその種子の発芽に成功し、紅色の大輪の花を咲かせました。

そのハスの実の驚異的な生命力に驚かされて、大ニュースになりました。この蓮(はす)は「大賀ハス」と名付けられ、全国に株分けされて、現在も繁殖し続けています。



ハスの花

ハスの花は7~8月の早朝4時ごろから、紅色や白色の花が咲き始め、午後には花を閉じて、4日目には花弁が散ります。葉は直径30~50cmの円形で、葉身の中央に葉柄が付き、地下茎は秋になると先端部が大きくなり、蓮根(レンコン)として食用にされます。「岩国レンコン」が有名ですが、これは岩国藩主「吉川家」の家紋が「蛇の目九曜の紋」で紋の形と岩国レンコンの穴が同じように9つあり、藩主を非常に喜ばせたことに由来します。一般のレンコンの穴は8つです。

レンコンを輪切りにすると穴が開いていることから、先を見通す、受験に通ると縁起物として料理に使われます。ハスは古い時代から、泥の中からも清らかで美しく豊かで神聖な花を咲かせることができる植物として尊ばれ、特に、古代インドでは仏教のシンボルとされ、サンスクリット語でパドマとよばれました。(上村)

昆虫の話

7月のガ

梅雨末期から梅雨明けにかけて多種類のガが羽化し、広島県内の自然度の高い場所で新月の夜にライトトラップを仕掛けると、一晩に百数十種のガが飛来することがあります。今回、「7月のガ」と題してどの種を選ぶか悩みましたが、標本展示の際などに注目されることの多いガ2種を紹介することにしました。いずれも県内に幅広く分布し、過去に園内

でも見かけたことのあるガです。

まず、**ギンモンズズメモドキ**です。成虫はスズメガ科のような形をしています。幼虫がシャチ鉾の形をしたシャチホコガ科に属します。カエデ類に寄生し、7月に羽化します。前翅の銀白色の三角紋が特徴的で、男の子が必ず興味を持つガのひとつです。反応としては「何じや、こりやあ〜!」、「すげえ〜!」といったところでしょうか?雄は驚かせると、体を海老反りし腹部先端を二股に広げ、脚の横から赤い毛を伸ばして威嚇するので、生きたガを見た子どもはさらに驚きます。県内の山地部を中心に幅広く分布し、筆者はこのガを見たら夏が来たなと感じます。



左:ギンモンズズメモドキ 雄 右上:カギバアオシャク雄
右下: 同 雌

次に、**カギバアオシャク**です。幼虫が尺取虫のシャクガ科の中に、アオシャクという一群があり、国内に80種余、県内に50種余が分布します。緑色系の翅は、種類によって色調が異なり、青緑、黄緑、薄緑、・・・と言葉で表現できないほどさまざまな緑色があり感心させられます。しかし、緑色は湿気に弱く、乾燥した状態で持ち帰り素早く標本にしないとすぐに色褪せします。アオシャクの美しい標本を集めるのが筆者の秘かな楽しみになっています。カギバアオシャクはその中で最も大型で、青緑系の落ち着いた色合いを持っています。ブナ科に寄生し、成虫は5月から10月に見られますが、7月に数が多くなります。ギンモンズズメモドキと違って、とにかく女性に人気があります。チョウをモチーフにしたデザイナーとして森英恵さんが有名ですが、ガの好きな佐賀錦作家に松浦寛子さんという方がおり、その方が好きなガのひとつだそうです。(相良)

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(12-3)

浄水場を右手に見ながら東山作業路に入り、山の斜面に目を向けると、緑色の藻の様な中に、胞子体だけが立ち上がっているのを見ることがあります。これはコスギゴケと同じニワスギゴケ属のハミズゴケです。

コケ類の胞子は湿った土に飛び散ると、原糸体という糸状のものが発芽し、枝分かれしながら土や岩の表面に広がります。広がった原糸体からは茎や葉をもつ配偶体が芽を出します。ほとんどのコケは茎や葉が発達すると原糸体は枯れてなくなります。しかし、ハミズゴケなどのごく一部のコケでは、原糸体は長く残り、光合成を続けます。

私たちが普段目にしてる茎や葉の姿が配偶体ですが、ハミズゴケはこの配偶体が発達していないため、葉が目立ちません。胞子体は立ち上がっているのに葉はどこにも見られません。このことが「葉見ずゴケ」の由来です。しかし、ルーペで見ると、蒴柄のつけ根に、小さな葉が確認できます。

胞子のうは円筒形で、仲間のスギゴケ同様、帽は毛で覆われています。(山根)



緑色の原糸体から立ち上がる、
ハミズゴケの胞子体



胞子体のつけ根に見える
ハミズゴケの葉

研修会のご案内

- 7月3日(土) 『7月の自然探勝』
散策路を歩きながら植物を観察します
※ 自由参加、無料
 - 7月4日(日) 『夏のきのこ教室』
園内でキノコを採集し、午後、持ち寄ったキノコを鑑定します
※ 自由参加、無料、採集用かご持参
 - 7月18日(日) 『夏休み昆虫教室』
昆虫の生態や採集方法を学び、屋外で採集します
※ 要予約(キャンセル待ち)、無料、採集用具持参
 - 7月18日(日) 『夏休み自由工作塾』
※ 自由参加、随時受付、材料費100円、雨天中止
 - 7月22日(木・祝) 『藍のトントン染め』
藍のなま葉をトントンたたき、ハンカチを染めよう
※要予約(先着10名)、材料費100円
 - 7月25日(日) 『昆虫標本作り入門』
昆虫について学び、標本を作ります
※要予約(先着10名)、材料費500円
 - 7月25日(日) 『夏休み自由工作塾』
※ 自由参加、随時受付、材料費100円、雨天中止
- 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：森林インストラクター
野田 圭一
- 10:00～14:00 第3駐車場 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章
- 10:00～15:00 学習室 集合
講師：技術士(環境部門)
亀山 剛
- 10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧
- 10:00～12:00 学習室 集合
講師：サイエンス インストラクター
山縣 圭子
- 10:00～12:00 学習室 集合
講師：技術士(森林部門)
相良 伊知郎
- 10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。また状況によっては、研修内容の変更や中止となる可能性があります。ホームページ、お電話等で最新の情報をご確認ください。

☆お知らせ・ご案内☆

第19回 ひろしま「山の日」県民の集い 8月8日(日) 10:00～15:00
(レストハウス裏庭)
自由工作、ネイチャーゲーム

◎ 展示会

場所:レストハウス
(パネル展示)

令和2年度広島県愛鳥週間ポスター

入賞作品展 7月6日(火)～8月3日(火)

(ガラスケース展示)

森のクレイアート作品展

～7月31日(土)



「令和2年度広島県愛鳥週間ポスター入賞作品展」より



「森のクレイアート作品展」より